

■街づくりキャンペーン——水と緑と文化の街をめざして

県都富山市のシンボル・松川辺りを 緑あふれる自然空間に!

■座談会出席者(敬称略)

伊藤保忠(富山県農林管理課主幹緑化推進係)

荒屋健治(花と緑の銀行主任)

笹倉慶造(富山県自然保護協会代表)

北山直人(北山ナーセリー社長)

三田昌美('93ミス立山黒部アルペンルート)

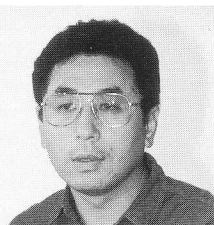
■司会

中村孝一(月刊グッドラックとやま発行人)

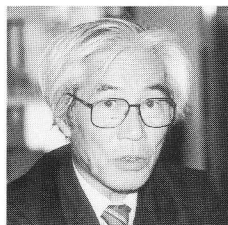




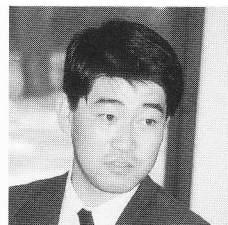
三田昌美さん



北山直人さん



笹倉慶造さん



荒屋健治さん



伊藤保忠さん

昨年、全国をまわっているという画家の方が松川を描かれましたが、護岸がすべて草で覆われているんですね。理由を尋ねますと、「護岸の石垣が非常に人工的なので描けなかった」そうです。つまり、彼は草花の生い繁った自然いっばいの姿が、本来の松川だと創造力を働かせ

花と緑の松川辺りに!

経済的、物質的な豊かさの追求からいま一步進み、精神的な豊かさが求められるようになった現代。全国各地で「花と緑の街づくり」が叫ばれ、様々な対策が試みられている。富山県も例外ではない。「花と緑の日本一」をスローガンに掲げ、うるおいとやすらぎある美しい県土を目指している。

しかし、茶色い地肌がむきだしになり、白い玉石が整然と並ぶ松川の護岸は、お世辞にも自然あふれる空間とは言い難い。県都富山市のシンボルである松川辺りの緑化こそ、「花と緑の日本一」につながるのではないだろうか。

て描いたというわけです。

さて本日は、花と緑に縁の深い皆様にお集まりいただきまして、より美しい松川辺りを創造するにはどうしたらよいか、ご意見をいただければと存じます。

伊藤 私どもでは、平成3年に「新富山グリーンプラン」を策定し、花と緑の県づくりを進めておりますが、その中でも河川における潤いある水辺づくりは重要なポイントとなっております。従来のように機能のみを重視するのではなく、自然を生かした護岸整備が提唱されているわけですね。

松川の場合も、石の間からツタや草が生えていたりするだけで、ずいぶん自然な感じになるのではないのでしょうか。

工夫次第で 方法はいろいろ

司会 日本の川の場合、ヨーロッパなどと比べると増水しやすさという難点があり、治水上の配慮は必要不可欠です。しかし、だからといって護岸に石を一直線に並べ、緑のない殺風景な状態にしておく必要もないわけですね。特に松川の場合、豪雨の時、は上流にある磯部の水門を閉め、神通川に流すことよって増水を防ぐことができます。やり方

次第では、いくらでも自然あふれる空間を創り出すことができるといえますが…。

機能・プラスαの 感動を

北山 自然の潤いを求めるというのは、心のゆとりを求めることだと思えます。われわれ日本人は、最近ようやく機能的・物質的なもの以外に目を向けるようになってきたわけですね。家庭に例えますと、結婚し、子供ができ、仕事に奔走すると



▲均一の玉石が整然と並ぶ松川の護岸には、自然の潤いが感じられない。

兼 銘 路 越

とによつ



本舗 大野 竜

高岡・富山・金沢

いった余裕のない時期が一段落し、庭に花でも植えてみようかと思いついた時期ではないでしょうか。

河川の場合も、治水・利水という機能的な事柄が一段落し、機能プラスαが求められるようになってきたのだと思います。

これが成熟すると文化になるわけですが、今はちょうどその入り口にいる段階なのではないかと思えます。

荒屋 それには、松川をこんな風にしたいという市民意識の高まりも必要ですね。

北山 そうですね。松川の護岸を自然でいっぱいにして、感動を味わいたいなあと思んが思うようになりますと素晴らしいと思います。機能プラスαの感動が何かひとつでもあれば、心にとりが生まれるんですよ。それにはチームを持つということも必要だと思いますが、知恵を絞れば何でもあるのではないで



▲石と石の間から草花がのぞくだけでも、ずいぶん違う印象に！



▲草花によって美しく演出された川べり。思わず足を止めたくくなるような不思議な魅力が自然の中にあるのだ。

造園的な見地で 松川を見る

いろいろな種類の草花がありまして、これらをどのように松川の護岸に生かしていくかは、技術的な問題ではなく、市民の意識の問題だと思います。

しょうか。

笹倉 昔は機能さえ重視すればよい時代でしたし、親水という言葉がでてきたのもごく最近のことです。しかし、潤いある水環境を整備することは、今後

ますます重要な課題となつてくると思います。

松川の場合、護岸の玉石が均一に揃えられ、ただひたすら単調に並べられているんですね。

これは土木工法でやっているからで、造園的な見地からすると非常におかしいことです。大小の石を取り混ぜれば自然の雰囲気が出ますし、苔も生えやすくなるのですが、自然の中には均一なもの、単調なものはないわけですから、松川の護岸が人工的に見えるのは当然のことでしょうね。

川辺りの花も、いかにも植えましたよという人工的な感じのするものではなく、さりげない草花がふさわしいように思えますね。

苔や草花で さりげない演出を

司会 兼六園の曲水にしても、護岸の石垣に苔が生えていたり、シダ類の葉がのぞいたり、あるいは小さい花があつたりと、非常に人の心をなごませる自然の雰囲気がありますね。できるだけ自然の雰囲気を残すようにと剪定されているようですが、やはりそういった心配りがあってこそ、美しい自然が保たれるのかもしれないですね。

手入れは大変かもしれません

が、松川の護岸も昔や草花を使って自然な感じに整備できれ
ばと思います。

笹倉 やはり、もっと造園的な
立場から護岸整備を考える必要
がありますね。道路も河川もす
べて画一的に整備してしまうの
では、まったく美的感覚があり
ません。

多自然型工法を

取り入れる

司会 スイスでは、今まで人工
的に作り変えた河川をどんどん
自然の姿に戻しているそうです。
例えば石積み護岸の場合、わざ
とガタガタとずらしたり、とこ
ろどころにつたを垂らしたりと
非常に細かい所に気をつけてい
るんですね。石の間には小動
物の住み家も用意しているそう
ですよ。

多自然型工法を実際に導入し
ている良い例だと思いますが、

見習うべきことが多いですね。
荒屋 ヨーロッパのものをその
まま取り入れることは難しいか
もしれませんが、日本の地域性
にあった多自然型工法を創造し
ていく必要がありますね。

県民や市民の

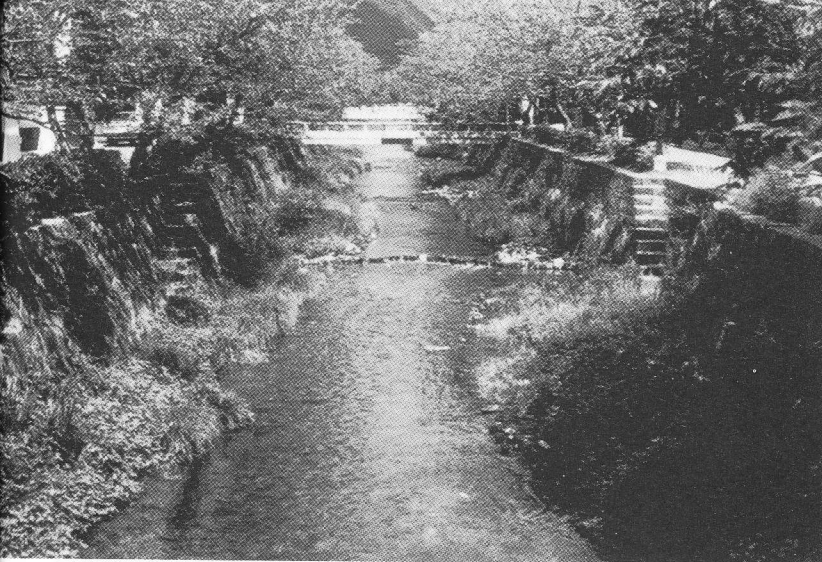
意識の高まりを!

三田 私にとっては、松川辺
りイコル春の桜というイメージが
非常に強いんです。四季折々の
自然が楽しめるような空間にな
れば素晴らしいですね。

伊藤 川に欠かせないものに橋
がありますが、この橋をブラン
ターで飾るというのおもしろ
いと思います。

現在、国も県も親水事業には
大変力を入れておりますので、
松川辺りについても、時間はか
かるとはありますが、徐々に改善
されて行くのではないでしょう
か。そのためには、県民や市民
の意識の向上、気運の高まりが
大切ですね。

北山 今は少しずつ人々の意識
の中に、もっとこうなったらいい
なというイメージが芽生えて
きた頃だと思えます。いわば
泡がブクブク出始めた状態なん
ですね。この時期を大切にして
どんどん意識を高めていけば、
花と緑のシンボルとしての松川
辺りを創造することは可能だと



▲山口県・一の坂川のホタル護岸。ホタルが自然発生するように、低水路や護岸や河床を自然の複雑な環境となるよう改修した。(「水辺の景観設計」技報堂出版より)

注目される多自然型工法



▲石積み護岸の上縁に野草をV字型に植え、人工的な印象を和らげた例（スイス・テス川）

スイスのチューリッヒ州では、より豊かな自然を形成するため、護岸整備の工法に次のような優先順位を与えている。

1. 生物材料（植物）による工法
2. 混合材料（植物と木または石材の併用）による工法
3. 堅固な材料（木材、石材、コンクリート）による工法

もちろん河川の洪水流が激しく、河岸の浸食が強度に大きい場合には優先順位の低い工法も選定されているが、同時に水制

や落差などを用いて洪水流を和らげ、優先順位の高い工法を選定する努力も行われている。多自然型の河川建設が目指すのは、「川らしい川」の復活である。それは抽象的一般的な「川らしさ」ではなく、その地域の風土を形成する様々な要素が取り入れられた固有名詞としての「川」らしさなのである。「まちと水辺に豊かな自然を」リバーフロント整備センター編 集・山海堂 参照

思います。市民の方には、公共の場は自分たちの場でもあるという意識で街づくりに参加していただきたいですね。

わが富山県は、花と緑の日本一、全県域公園化構想という高い理想を掲げています。それゆえ、河川においても機能性だけでなく、自然の潤いや景観の美しさを追求していかねばなりません。まず県都富山市の中心部を流れる松川をモデルケースにできれば、県下全域の河川に波動となって伝わっていくのではないのでしょうか。

本日は皆さま方から様々なご意見をいただきましたが、これをつっかかけに、松川辺りを緑あふれる自然空間にしよう！という声が少しでも高まればと思っております。どうもありがとうございます。cl

▼ニュージーランド・クライストチャーチを流れるエイボン川の水辺。花と緑に包まれた落ち着いた佇まいが、訪れる人々の心を和ませる。

